第4編

第2章 日本の近代化と人々の生き方/第2節 近代的個人の自覚

長き手紙を書きたき夕 (ゆふべ)

人間のつかはぬ言葉 ひよつとして われのみ知れるごとく思ふ日

あたらしき心もとめて 名も知らぬ 街など今日もさまよひて来(き)ぬ

友がみなわれよりえらく見ゆる日よ花を買ひ来て 妻としたしむ

人といふ人のこころに 一人づつ囚人がゐて うめくかなしさ

教室の窓より遁(に)げて ただ一人 かの城址(しろあと)に寝に行きしかな

不来方(こずかた)のお城の草に寝ころびて空に吸われし 十五の心



▶ pp.191 ~ 193

水平社創立宣言

宣言

全国に散在する吾(わ)が特殊部落民よ団結せよ。

長い間虐(いじ)められて来た兄弟よ。過去半世紀間に種々(いろいろ)なる方法と、多くの人々によってなされた吾等(われら)の為(た)めの運動が、何等(なんら)の有難(ありがた)い結果を齎(もた)らさなかった事実は、夫等(それら)のすべてが吾々によって、又他の人々に依って毎(つね)に人間を冒瀆(ぼうとく)されてゐた罰であったのだ。そして、これ等の人間を勦(いたわ)るかの如(ごと)き運動は、かへって多くの兄弟を堕落(だらく)させたことを想へば、此際(このさい)吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集団運動を起せるは、寧(むし)ろ必然である。

…… (中略)

吾々はかならず卑屈なる言葉と怯懦(きょうだ)なる行為によって,祖先を辱(はずか)しめ, 人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷 たさが,何(ど)んなに冷たいか,人間を勦(いた) はることが何んであるかをよく知ってゐる吾々 は、心から人世の熱と光を願求(がんぐ)礼讃(らいさん)するものである。

水平社は,かくして生まれた。 人の世に熱あれ,人間に光あれ。

大正 11 年3月

水平社